

一 次の文章を読んで後の問いに答えよ。

31年9月18日、奉天(現・瀋陽)郊外の柳条湖で、南満州鉄道の線路が爆破される。満州に⑧チユウ留していた*関東軍は、この事件を反日活動が続ける中国東北軍の破壊活動と断定、中国東北軍の制圧を開始する。その一報を地元駐在の日本人記者が報道。こんなどん底の時代にも日本軍は正義の鉄槌を下すのだと、日本人は、ア溜飲を下げた。

実は中国東北軍への攻撃のイ大義名分を作るために関東軍が仕掛けた爆破だったが、それを報道した日本の新聞社は、当時、一社もなかった。逆に、事変に肯定的な報道合戦が始まる。

その結果、部数減が続いていた新聞の発行部数は回復し、やがて急増する。

メディアの戦争責任に詳しい佐藤卓己・京都大学教授の著書『メディア社会と現代を読み解く視点』によると、31年ごろには、400万部程度だった大手新聞三社(朝日新聞、毎日新聞、読売新聞)の発行部数合計が事変後に急増。太平洋戦争開戦の年には800万部を超えた。

無論、当初は、軍部の情報一辺⑥トウではない記事も掲載されていた。ところが、①軍の批判記事が掲載されると、全国規模の不買運動が起きてしまい、結局、新聞各社は売り上げ優先に走り、戦争礼賛へと傾斜していく。

新聞以上に、国民の戦意発揚を刺激したメディアがある。
25年にスタートしたラジオ放送だ。

その翌年には東京、大阪、名古屋と個別だった放送局を統括し、日本放送協会が誕生、それから終戦後の51年までラジオ放送は、同協会が一局で独占した。

満州事変を契機に、ラジオの受信契約者数は急増する。放送開始時には5500件だったものが、事変の翌年には100万件を突破。開戦時には500万件をはるかに超えた。

昭和女子大学名誉教授で、メディア研究家である竹山昭子の『戦争と放送 資料が語る戦時下情報操作とプロパガンダ』によると、満州事変以降、人気を集めたのは、戦況ニュースだった。日本軍の活躍を知るだけでなく、戦場に赴いた身内の安否を知るための重要な情報源だったためだ。

ラジオの影響力について、竹山に話を聞いた。

「論理的な思考で報道する新聞と違って、ラジオは人の声を②バイ介に情緒に訴える。②それが、国民の戦意発揚に大きく影響した」と分析する竹山は太平洋戦争開戦時、13歳だった。

「ラジオの影響もあって*軍国少女でした。当時は日本軍に正義があると、誰もが信じていました」
ラジオが生活でいかに重要だったのかを物語るエピソードを、竹山は教えてくれた。

「③空襲警報が鳴って防空壕に入る時に私が必ず持っていたのが、ラジオの受信機でした。絶対に壊すわけにはいかない大切な社会の窓でした」

④ラジオを戦意発揚に巧みに利用したのが、37年の日中戦争勃発時に首相を務めた近衛文麿だった。近衛はその前年に日本放送協会の総裁に就任。戦争終結の年に自殺するまで総裁職に就いていた。

近衛は、自らの演説を、ラジオで頻繁に生中継し、国民に④キヨ国一致で団結し、難局打破するよう訴えた。ラジオが放つ肉声の⑤イ力は、すさまじかった。時に首相の、時に軍幹部の声で、国民に一致団結を訴える。あるいは、戦場まで取材班が出向き、兵士らの生の声をお茶の間に伝える――。

その鬼気迫る声を聞いて、国民の熱狂はさらに高まり、⑤戦争に反対する国民を非国民だと非難するムードも巻き起こった。

そして、ラジオが*開戦を伝えた。

新興メディアが、国民を熱狂させる火付け役になるのは、何も戦争だけのことではない。

テレビの普及によって、オリンピックでの日本選手の活躍に興奮し、米国で起きたケネディ大統領暗殺事件を目撃して、悲嘆にも暮れた。

21世紀に台頭してきたSNSもまた、世界中に大きな影響を及ぼし、既に新聞・テレビなど「オールド・メディア」の存在を脅かしている。

重要な政治的決定を自身のツイッターで公表したトランプ大統領は、戦時中のラジオと同じく、為政者が国民に直接メッセージを送るメディアとしてSNSを利用した。そして受け手はそれに熱狂する。

2020年の世界を襲った新型コロナウイルスについても、SNSでさまざまな情報が飛び交い、混乱を招いたり、⑥自粛を強制する「自粛警察」を後押ししたりする力にもなっている。

無論、SNSにはプラス面もある。だが、「取扱注意」のメディアであるのは間違いない。

戦争にしても、政治の混乱にしても、“主犯”は軍人や政治家かも知れない。だが、忘れてはいけないのは、彼らが「好き勝手な行動」を出来たのは熱狂的に支持した世論(今でいえば民意)の存在があつてこそだ。

「戦争を始めなければ、平和は続く」と、誰もが知つていても、その戦争を後押ししている重要な要因が、世論であることを、我々はもつと強く肝に銘じるべきなのだ。

言い換えれば、自身の野望を実現したい為政者が、新興メディアを利用して、世論を味方につけようともくろんだところで、結局は、いつのまにか自分自身が世論に翻弄されて、制御不能に陥つてしまうのだ。

陸軍も海軍も、「アメリカと戦争をしたら、必ず負ける。だから、戦争は回避しなければならない」と考えていたにもかかわらず、日本の正義を貫くために、大敵に挑め!という世論を止められなかった。

そんな愚行を二度と起こさないために我々は、常に自分たちが当事者であるというメディアリテラシーを忘れてはならない。

(令和二年十一月二十八日付け朝日新聞より真山仁の文章による)

* 関東軍 中国関東州(現中国東北部)と南満州鉄道の警備を任務として日本の軍部によって置かれた陸軍部隊

* 開戦 一九四一年(昭和16年)12月8日の太平洋戦争の開戦を指す

* 軍国少女 戦時中、正義の戦争に協力しなければならないと日本の軍部を純粋に信じている少女

問一 傍線部a～eに当てはまる漢字として適当なものをそれぞれ次の①～④から選んで記号で答えよ。

解答番号a①b②c③d④e⑤

a チュウ ① 鋳② 駐③ 沖④ 宙

b トウ ① 当② 党③ 倒④ 頭

c バイ ① 煤② 賠③ 煤④ 媒

d キヨ ① 巨② 居③ 挙④ 虚

e イ ① 威② 異③ 偉④ 維

問二 傍線部ア、イの意味として適当なものをそれぞれ次の①～④から選んで記号で答えよ。解答番号ア⑥イ⑦

ア 溜飲を下げた ① 威勢のいいことを言つて相手を脅した。

② 不平・不満・恨みなどを消して気分をすっきりさせた。

③ 多くの仲間とともに激励のための酒を酌み交わした。

④ 賛同の拍手を惜しみなく送った。

イ 大義名分 ① ことを起こすときの理由付けとなる確かな根拠。

② 自分の言動を正当化するための偽の情報。

③ 用意周到で容易に見破られない陰謀。

④ 国際的な承認を得るための最低限の条件。

問三 傍線部①の意味として適当なものを次の①～④から選んで記号で答えよ。

解答番号⑧

① 軍部の巧妙な世論操作によつて国民大衆の中に戦争に対する積極的な雰囲気が出てきて、戦争に否定的な新聞社を組織的に潰そうとする団体ができた。

② 政府や軍部を批判することは国家への反逆であり、国への忠誠を誓っている国民としては戦争に批判的な新聞社は存在するべきではないと信じている。

③ 新聞社は社の信念に基づいて戦争に反対したが、軍部が国民をたきつけて、戦争に反対するような新聞は国家の敵だとして不買運動を起こさせた。

④ 会社経営としては、報道の質の良さや信念よりも大衆により多く買ってもらうほうが重要であるから、記事の内容が大衆の好み(民意)に流される。

問四 傍線部②の理由として適当なものを次の①～④から選んで記号で答えよ。

解答番号⑨

① ラジオは一度しか聞けないから傾注して聞くが、新聞は何度も読み返すことができるのであまり集中しないため、ラジオを信じてしまうから。

② 新聞は時々曖昧なことを報道するが、ラジオは正しいことしか放送しないというラジオに対する信頼が国民に形成されていたから。

③ 世論は必ずしも論理的なものではなく、そのとき的情绪・感情から醸成される雰囲気によって冷静さや客観性を奪われるから。

④ 身近な娯楽が少なかった当時、新しいメディアとしてのラジオは大変もの珍しく、ニュースや音楽に国民の皆が期待し喜んだから。

問五 傍線部③の理由として適当なものを次の①～④から選んで記号で答えよ。

解答番号 10

- ①報道メディア自体が少なく、現実には戦っている戦争に関する最も速く重要な情報源だったから。
- ②新聞社は軍の干渉を受けて公平で公正な情報は期待できず、また地方では伝達が遅かったから。
- ③敵の空爆を避けるために作った防空壕で、爆死や焼死の恐怖を癒やすせめてもの娯楽だったから。
- ④ラジオは一般の家には無くて、空襲警報が鳴ると真っ先に持って逃げるほど貴重品だったから。

問六 傍線部④の危険性として適当なものを次の①～④から選んで記号で答えよ。

解答番号 11

- ①権力者がメディアを支配するとメディアを利用して味方を団結させ、敵を憎む気持ちを煽り、分断と差別を助長させ、民族・国家の対立を招く。
- ②権力者がメディアを支配するとメディアの方から権力者に接近し、権力者に都合のいいように情報を捏造し、権力に取り入ってスクープを載せて発行部数を増やす。
- ③権力者がメディアを支配すると世論調査の結果に不正を働き、軍や内閣への支持率を実際よりも高く見せかけることで政権の延長に協力する。
- ④権力者がメディアを支配すると国民には権力者の都合のいい情報しか知らせず、国民の主体的な判断を妨げ、権力者に都合のいい世論を形成していく。

問七 傍線部⑤と⑥に共通するものとして適当なものを次の①～④から選んで記号で答えよ。

解答番号 12

- ①政府や軍の方針に異議を唱える人は愛国者ではないし、コロナ禍で外出自粛に応じない人も愛国者でなくて、ともに時代の空気を読めない人である。
- ②多様な考え方や感じ方を認めないで、そのときの雰囲気や協調して行けない人を差別して排除したり暴力的圧力を加えたりすることにつながる。
- ③国の政策として一つの方向が示されると、権限が無くても自分が国家の代弁者であるかのように権力側に味方してその実行を一般人に迫る人がある。
- ④国を一つにまとめるためには対立する国や重大疫病を作り出し、個人の自由意志が働くべきところに民間の警備組織を介入させて自由な言動を弾圧する。

問八 傍線部⑦で筆者が読者に注意を促している内容として適当なものを次の①～④から選んで記号で答えよ。

解答番号 13

- ①国民を戦争へ導く軍や政治家などは悪いが、民主主義は最善の決定システムだから、民主主義の名の下に多数決で決まったことは、戦争を起こす決定になっても守るべきだ。
- ②国民を戦争へ導く軍や政治家などは悪いが、世論(民意)が戦争を後押しする重要な要因にもなり、民意が必ずしも適切な方向を示すとは限らないから気をつけるべきだ。
- ③国民を戦争へ導く軍や政治家などは悪いが、民意の反映としての民主主義によって不正選挙や収賄をしたような政治家も当選するので、選挙民の意識を高くするべきだ。
- ④国民を戦争へ導く軍や政治家などは悪いが、戦争に負けても、世論(民意)を操作して国民全体に責任を転嫁してしまうので、国民は政治家や軍人の責任を問い続けるべきだ。

二 次の文章を読んで後の問いに答えよ。

一週間ほど前、ロンドン在住の外国人記者団が英国営放送BBCの社長を食事に招いた。カーラン社長は⑥生スライの放送人で、まだ五十歳の若さだ。「実力者」といわれる評判にたがわず、明快、率直で、歯切れのよい話しぶりだった。

たとえば、こんなこともいつていた。

「放送の勇氣とは、どれだけ少数者の意見を伝えるかにある。もしBBCにそれができないなら、①体制の意気地ない、青白い影法師だと非難されてもしかたないだろう。BBCも体制の一環だ。しかしわれわれの体制とは、自分に敵対する意見を、常に人々に伝え続けねばならないことだ。それが民主社会だと思っている」

話を聞きながら、これは古典的といえるほど見事な自由主義だと思った。また国営放送の責任者がこのような

信条を、だれに気がねもなくズバリといったのける国は、やはり立派な国だと考えざるを得なかった。

もう一つ、思い出す言葉がある。昨年暮れ、英国の王室費の値上げが問題になったとき、労働党左派の論客クロスマン氏はこれに反対して、こう述べた。

「王室の金は、永遠の論争の種だ。英国の歴史をみれば、王室の金で国王の首がはねられたこともあったのですぞ」

② 圧倒的多数の英国人は、王室びいきだ。その中でズケズケと王室批判をしても、みんなに白い目でみられたり、脅迫電話がかかったりすることはない。そしてまじめな新聞や放送は、こうした少数意見をきちんと人々に伝える。

この国でみていると、「言論の自由」を「自由にものをいう権利」と説明しただけでは、ちよつと不十分のような気がする。「言論の自由」とは、多数派に対し、とりわけ権力を持つものに対し、聞きづらいことをいう権利であり、また相手がその聞きづらいことを聞かねばならぬ義務のことなのだ。

逆の場合を考えれば、自明だろう。国王や政府を支持するために、なにも、「言論の自由」という*ダンピラを振り回す必要はないのだ。③ 昔からどこの国でも、そのときの権力を称賛する自由が抑えられたためしはない。

「言論の自由」はいつでも、権力を持たぬものが権力を批判するためにのみ存在していた。

「権力は腐敗する。絶対的な権力は絶対的に腐敗する」という英国の政治家の言葉があるが、おそらく大多数の英国人はこの格言を信じている。④ 英国人は現実主義的な国民だから、権力者の「自己批判」というものを信じようとはしない。言葉自体が矛盾していると考え。人間は人間が考えるほど高尚な存在ではなく、そもそも自分で自分を批判できる能力など持ち合わせているはずがないと考える。まして権力を手にするものほど、称賛に弱く、他の批判にはかたくなになることを知っている。

だから意地悪い見方をすれば、「自由な批判」を必要とするのは、少数者もさることながら、実は権力者の側にもある。自分が権力の上にだらしなく寝そべって、肥満し、腐敗することを防ぎ、その座から遠ざけられないようにする、という意味においてである。BBCの社長が「体制の中にあつて、体制の青白い代弁者にはならない」というとき、それは単に「自由」についての美しい哲学を述べているだけではない。⑤ もつとしたたかで、強靱な精神に支えられているのだ。

北アイルランド紛争の例をとりあげてみよう。

英本土から派遣された英兵は、カトリック系IRAのテロで、毎日のように殺されている。本土の英国人からみれば、いわば自分たちの兵隊が、毎日、かつての被征服者で宗派の違う人たちに殺されているわけだ。プロテストアント系の商店や住宅も、無差別に爆破され、ゴースタウンになったプロテストアント地区もある。

それでも英国人や英軍隊は、ヒステリーになっていない。軍隊は子どもにまで石を投げられながら、⑥ ガイシで冷静に治安に当たっている。国民も忍耐強く、少数派カトリックの言い分を聞いている。新聞は、もちろんテロには激しく反対している。しかし、そのために感情的になることなく、少数派の主張を十分に紹介しているし、軍隊に行き過ぎがあれば、それを批判する筆は容⑦ シヤない。英政府もカトリックの要求をいれ、プロテストアント系の支配する地方政府や議会を停止し、政治犯を釈放し、住民投票や非常拘禁法の撤回を約束している。

北アイルランド紛争について、英国がとってきた差別政策の歴史的な過失を⑧ 断ザイすることは、間違っていない。それが本当の紛争原因であろう。しかし、現在の英国全体が見せている忍耐力と政治的成熟さは、公平に見て、ほとんど驚嘆に近いものさえ感じさせる。

こうした態度を弱腰とみるのは、大きな間違いだろう。

聞きづらい、いやな意見に耳を傾け、自分が納得する限りで修正しようというのは、ただ「多数」を⑨ コ示するよりは、はるかに自信の強い、健康な社会なのだ。さらにいえば、⑩ 自分の考える「国益」が本当の「国益」であるためには、反対者の批判が不可欠だと信ずることは、この国では、権力者に要求される最小限の誠実さだとみられているものと思う。

(深代惇郎エッセイ集による)

*ダンピラ 本来は刃の幅の広い大きな刀の意味。ここでは威力のある武器の意味。

問一 傍線部①～⑩に当てはまる漢字として適当なものをそれぞれ次の①～④から選んで記号で答えよ。

解答番号 ① 14 ② 15 ③ 16 ④ 17 ⑤ 18

- | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|-----|-----|-----|-----|------|-----|-----|-----|-----|------|-----|-----|-----|-----|
| ① スイ | ① 垂 | ② 粹 | ③ 遂 | ④ 醉 | ⑤ ガイ | ① 慨 | ② 既 | ③ 概 | ④ 該 | ⑤ シヤ | ① 赦 | ② 謝 | ③ 射 | ④ 炙 |
| ⑥ ザイ | ① 済 | ② 剤 | ③ 宰 | ④ 罪 | ⑥ コ | ① 顧 | ② 呼 | ③ 固 | ④ 誇 | | | | | |

問二 傍線部①の意味として適当なものを次の①～④から選んで記号で答えよ。

解答番号 19

- ① 政府に都合のいい報道ばかりする翼賛メディア
- ② 政府に反対しかないアンチテーゼのメディア
- ③ 政府の方針に是々非々で接するメディア
- ④ 政治のことは報道しないエンターテイメントメディア

問三 傍線部②の理由として適当なものを次の①～④から選んで記号で答えよ。

解答番号 20

- ① イギリスは王室のお金の問題で国王の首をはねるほど金銭的な不正に対しては潔癖な国だから。
- ② イギリスは王室びいきであるという点では国民の共通理解として反対派も一致しているから。
- ③ イギリスには少数意見や反対意見にも真面目に耳を傾ける成熟した民主主義が深く根付いているから。
- ④ イギリスでは王室の悪口を言うと多くのメディアから非難され、次の選挙では確実に落選するから。

問四 傍線部③に表れている筆者の考えとして適当なものを次の①～④から選んで記号で答えよ。

解答番号 21

- ① 政権を称賛しようが政権に反対しようが「言論の自由」は絶対に確保されなければならない、メディアはどの政党からも独立していなければならない。
- ② 警官でも拳銃を持っていないイギリスでは「言論の自由」が政権に賛成する者にも反対する者にも国民の平等に与えられた唯一の武器である。
- ③ 厳正な中立意見が「言論の自由」であり、時の政権を称賛するメディアの意見は政権と癒着して買収されている可能性がある、「言論の自由」ではない。
- ④ 「言論の自由」とは政権を批判する者や少数派の発言の自由を保障することであり、政権に賛成する発言の自由は「言論の自由」の範疇には入らない。

問五 傍線部④の理由として適当なものを次の①～④から選んで記号で答えよ。

解答番号 22

- ① 人間は人間が考えるほど高尚な存在ではないので他人のあら探しばかりしているのが現実であり、英国を初め欧米では謙虚さなどあり得ないから。
- ② 自分の欠点は見えにくいので自分自身を批判できる能力がないし、権力を持てば自分の賛成者には甘く批判する者を拒むのが現実であるから。
- ③ 欧米人は自分の権利ばかり主張し他人の権利は認めようとしない利己的な人々が多いが、人間はそういう面を持っているのが現実であるから。
- ④ 「絶対的な権力は絶対的に腐敗する」というのは現代も現実であり、様々な政権が他者の意見に耳を貸さず、自身を振り返ることすらもできないから。

問六 傍線部⑤の「もつとしたたかで、強靱な精神」の由来するものとして適当なものを次の①～④から選んで記号で答えよ。

解答番号 23

- ① 自分が信じる神のためには命をも投げ捨てて戦うという、ヨーロッパで長い間繰り返されてきた宗教戦争の苦い経験に対する反省からきている。
- ② 英国人が革命を起こし血を流して勝ち取った自由や権利は、国民が安閑としてしていると独裁者に奪われることを長い歴史の繰り返しで学習したところからきている。
- ③ 欧州の国々が、カトリックかプロテスタントか、「イエス」か「ノー」かの二者択一でのみ捉え、多様性を認めない選択を国民に迫り続けてきた長年の歴史からきている。
- ④ ただ多数決で押し切ったり武力で制圧したりするのでは無く、反対派の意見を聞き、自らの修正すべき点を修正して事を進めるといふ政治的な成熟からきている。

問七 傍線部⑥の態度を表す言葉として適当なものを次の①～④から選んで記号で答えよ。

解答番号 24

- ① 尊大
- ② 謙虚
- ③ 傲慢
- ④ 卑屈

三

次のA～Gの()に適切な植物名を後の語群から記号で選び慣用句・ことわざを完成させよ。

解答番号 A [25] B [26] C [27] D [28] E [29] F [30] G [31]

- A ()の背比べ
 B ()から駒が出る
 C ()に雪折れなし
 D 雨後の()
 E ()の大本
 F 木に()を接ぐ
 G 瓜の蔓に()はならぬ
- どれも平凡であり差が無いこと。
 意外なところから意外なものが出てくること。
 柔らかいものが堅いものより物事に耐えられること。
 似たようなものが続々と出てくること。
 体が大きいで役に立たない人のこと。
 ちぐはぐなこと。
 血統は争えないこと。
- ①竹 ②芋 ③へちま ④筍 ⑤柳 ⑥うど ⑦瓢箪 ⑧なすび ⑨どんぐり

四

次のA～Gの()に適切な熟語を後の語群から記号で選び四字熟語を完成させよ。

解答番号 A [32] B [33] C [34] D [35] E [36] F [37] G [38]

- A 頑固() B 安心() C 隠忍() D 五里()
 E 電光() F 輕拳() G 縦横()
- ①霧中 ②無尽 ③自重 ④一徹 ⑤妄動 ⑥石火 ⑦立命 ⑧滅裂 ⑨風光

五

次のA～Gの外来語の意味として適当なものをそれぞれ後の①～⑨の中から選んで記号で答えよ。

解答番号 A [39] B [40] C [41] D [42] E [43] F [44] G [45]

- A イノベーション B リテラシー C オファー D マニフェスト
 E シミュレーション F アナロジー G ステレオタイプ
- ①経営管理 ②技術革新 ③提案・申し入れ ④模擬実験 ⑤固定観念
 ⑥宣言・公約 ⑦類似・類推 ⑧文脈 ⑨読み書き能力・読解力

六

次の文学史A～Gの作家の作品として適当なものをそれぞれ後の①～⑨の中から選んで記号で答えよ。

解答番号 A [46] B [47] C [48] D [49] E [50] F [51] G [52]

- A 野間宏 B 大岡昇平 C 三島由紀夫 D 安部公房
 E 安岡章太郎 F 遠藤周作 G 大江健三郎
- ①天平の甕 ②ヒロシマ・ノート ③李陵 ④真空地帯 ⑤野火
 ⑥海辺の光景 ⑦海と毒薬 ⑧砂の女 ⑨金閣寺